

2015年3月期 第2四半期決算説明会における質疑応答

開催概要

【日 時】2014年11月13日(木) 13:30~14:30
【場 所】株式会社ゼンリン 東京本社 (ワテラストワー12階)
【出席者】代表取締役社長 高山善司
代表取締役副社長 網田純也
執行役員コーポレート本部長 松尾正実

質疑応答概要

以下は、質疑応答の概要をまとめたものです。

Q1：ICT事業について、他社はスマートフォン向けサービスの拡充を進めているが、近々の計画を教えてください。

A1：自動車のディスプレイとスマートフォンを連携するサービスを進めています。
汎用性の高いサービスの他、利用用途に応じた差別化されたサービスの検討・開発を進めています。

Q2：ICT事業について、上期8億円減収に対し、下期は減収幅が縮小する予想としている理由を教えてください。

A2：地図ポータルサイトのシェア拡大と、商業利用のAPI利用拡大に営業強化していきます。

Q3：GIS事業について、パッケージ商品の9月末会員数と今後の計画を教えてください。

A3：会員数は非公表となりますが、今期末までに、前期末の約2倍の会員数を計画しております。

Q4：GIS事業について、パッケージ商品は不動産業及び建設業以外のリリースと顧客獲得計画を教えてください。

A4：利用用途の調査・分析を強化しており、いくつかの業種に特化した商品を検討中です。
既に基盤はありますので、これらを活用することでコストを抑えた形でサービス展開できます。

Q5：ITS事業について、ADASに関するビジネスモデル及びサービスのマネタイズについて教えてください。

A5：現在検討中の段階となります。
安全運転支援はデータの更新が非常に重要となりますので、イニシャルとストック型でビジネスできれば理想的ですが、お客様と協議して最適な方法を選択していきたいと思っております。
時空間データベースは常にメンテナンスできる仕組みとしていますので、あらゆるサービス形態に対応できる環境を整えてまいります。

Q6：ICT事業について、ポータルサイトへ地図データを提供するにあたり、他社との価格競争に負けない当社の優位性を教えてください。

A6：ポータルサイト向けには、当社保有データの一部を契約に沿って、表示用や案内用などコンテンツ毎に対価を設定してご提供しています。
他社に提供していない当社独自のコンテンツや、開発を進めている時空間データベースを活用した、差別化されたビジネスモデルを構築してまいります。

以上